

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年6月18日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870300878		
法人名	有限会社 ケア・コンフィデンス		
事業所名	グループホーム しょうわ家族	ユニット名	亀
所在地	〒300-0877 茨城県土浦市荒川本郷218-173		
自己評価作成日	平成23年9月20日	評価結果 市町村受理日	平成24年6月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0870300878&amp;SCD=320&amp;PCD=08">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0870300878&amp;SCD=320&amp;PCD=08</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年11月28日	評価確定日	平成24年6月1日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"><li>・日中、原則玄関の施錠はせず、自由に散歩など外に出る事ができ開放的な空間である。施設内もユニットや共有スペースを行き来できる為、束縛感がない。</li><li>・行事等を通じ、近隣の方との交流やご近所の美容室や床屋に行くなど、地域の方との交流を大切にしている。</li><li>・ボランティアを積極的に受け入れ、入居者の方を楽しませてくれている。</li></ul>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>しょうわ家族の「しょうわ」には唱和する、笑話する、昭和に生きたとの意味を込めている。</p> <p>食材は事業所の負担は増えるが有機野菜や無添加にこだわって仕入れ、手間暇かけて野菜の面取りをして美味しい食事を提供するよう努めたり、栄養バランスの良い食事となるよう献立に配慮している。</p> <p>このような施設長の心配りが随所に見受けられ、それが職員の利用者や家族等への気配りやケアに対する姿勢に反映されており、利用者の笑顔や安心感、満足感につながっている。</p>
---

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づきより良いサービスが提供できるよう日々努めているが、今後もさらに努力が必要である。	「利用者の皆様お一人おひとりが自由と尊厳を持って主体性のある生活を送っていただくような質の高いサービスを提供します」との理念を掲げ支援している。 管理者は理念を玄関に掲示して周知するとともに、月1回のケア会議のほか食事や排せつのケアを通して職員に意識付けを行い実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや芋煮会等の施設のイベントに参加してもらったり、散歩中声をかけてもらうなど、地域との交流が日常的にある。ご近所の美容室や床屋にも行っている。	事業所が主催する夏祭りやいも煮会などに地域の人々を招待したり、中学生や薬剤師の体験学習、ボランティアによる読み聞かせやお茶会を受け入れ、利用者が地域の人々と交流ができるよう支援している。 利用者と職員は散歩時に地域の人々と挨拶を交わしたり、会話を通して積極的に地域に溶け込むよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流の中で、認知症の方の暮らしを知って頂く機会はあるが、地域の高齢者に対し、何か役立つ事がないかの話し合いをする場は、現在のところできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の現状報告以外にも、施設で困っている事、今後の課題等も報告し、メンバーの方から意見を頂きサービス向上に活かしている。	運営推進会議は利用者や家族等、市職員、介護相談員、地区代表者、協力医療機関の医師、施設長、管理者で2ヶ月に1回開催している。 会議では活動状況を報告しているほか、委員から地域の情報を得たり意見を出してもらい、出た意見等を運営に反映させている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	特にわからない事や困っている事は、施設の中だけで解決しようとせず、高齢福祉課などに相談し助言等頂いている。	管理者は運営推進会議で市担当者と話をしてほかに、市担当課や地域包括支援センターへ積極的に足を運び、事故報告や要介護更新認定申請時に指導や助言を得るなど、日頃から事業所への理解を深めてもらい、協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。実践はできているが、改めて身体拘束に対して学ぶ機会を設けても良いかと思う。	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成するとともに、管理者は内部研修や外部研修、会議を通して、職員に身体拘束をしないケアを徹底させている。 日中は玄関を施錠せず、利用者が自由に散歩に行けるように支援をしている。 緊急やむを得ず身体拘束をする場合に備えて、同意書などの書類を作成している。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は行われていない。しかし、改めて学ぶ機会には設けられていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族から利用の要望があれば管理者が応じているが、全職員が学ぶ機会には設けられていない。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約自体は施設代表者が行っている。管理者は施設生活についての不安や疑問点、要望など、ご家族と十分に話し合っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは日頃から施設や入居者の方の様子をお伝えしている。改めて機会は設けてないが、ご家族の来訪時などにはオープンに話ができている。	管理者は運営推進会議で家族等の意見や要望を聴いているほか、管理者や職員は家族等の来訪時や電話連絡時に意見等を聴くように努め、出た意見等を運営に反映させている。 運営推進会議で、看取りを行うには医療連携体制を整備することが重要であり、そのためには利用料が増すことを説明し、承諾を得て準備を進めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員からの意見や疑問点等があればそれらをまとめ、代表者に伝え意見が反映できるよう努めている。	各ユニットのリーダーが職員の意見を汲みあげ、出た意見等をリーダー会議で話し合い、全職員が参加する月1回の定例会議で議題にあげて検討している。 職員から出た外部研修受講希望や食事の介助方法、行事などに関する意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績は認められている。離職率が低く、働きやすい職場環境であると思う。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修は少ない。学びの機会は計画的には確保されていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者や職員が同業者と交流する機会は設けられていない。代表者が地域密着型サービス等の会議に参加する事はある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。不安、要望等があっても言葉で上手く表現できない方が多いので、その方の表情、しぐさ、何気ない会話の中から、ご本人の気持ちを受け止めていけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。サービス導入時は主に管理者がご家族からよく話を聞き他の職員にも伝え、ご家族の要望、不安等を共有し信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今すぐに入居したい、という方が多いが、実際には空きがない状況がほとんどである。ご本人の状態やご家族の要望を考慮した上で同事業所のデイサービスの利用を提案したり、他事業所の紹介をするなど、何らかの支援ができるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の進行や身体機能の低下などもみられるが、ご本人のできる事を探し、一緒に行えるよう努めている。たとえできる事が少なくなっても、一緒に笑ったり、励ましあったりと、共に表情豊かに過ごしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からの要望はもちろんの事、こちらからの要望がある際は率直に相談し、互いに支援できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外にも、友人や知人の方などの面会もオープンに行われている。ご家族と外出する方もいる。	利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係を継続することは難しい状況だが、できるだけ継続できるよう努めており、利用者が事業所の公衆電話や携帯電話で家族等に連絡をする場合は、職員が電話をかけてつなぐように支援をしている。 家族等の協力のもと利用者が冠婚葬祭に出席できるように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループホームで暮らす中、自然と気の合う仲間ができたりする場面はあるものの、職員が改まって支援するまでにはまだまだ至っていない。孤立しがちな方に対しては、皆と交流しやすいように声かけなど努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には移り住む先の関係者に対し、ご本人の今までの様子を詳細に伝えているが、経過まではフォローできていない。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	努めている。ご本人の思いや要望をできる限り受けとめている。言葉で表現できない方に対しては、表情や行動から察知し、スタッフ間で相談をしながら把握できるよう努めている。	職員は利用者との日々の係わりの中でできるだけ声をかけ、意向や希望の把握に努めている。  意思疎通が困難な利用者の場合は、表情や行動からその真意を推し測ったり、家族等や関係者から情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ご家族から話を伺ったり、本人との会話の中から把握するよう努めている。また、入居時になじみの物や大切にしている物などを自由に持ってきてもらっている。お位牌やお仏壇を持って来られる方もいる。			
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。特に心身の状態変化は見逃さないよう注意している。その為には職員の情報交換が今後さらに必要である。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画に対して本人と改まって話をするというよりは、普段の会話の中や心身の状態を見ながら反映させている。ご家族の要望はもちろんの事、職員間での気づきや意見も反映するよう努めている。	利用者や家族等の意見や希望を反映させた介護計画を作成している。 毎日の個人記録のほか、利用者毎のモニタリングノートに出来事や観察して気になることを記録しており、それらの情報を基に全職員が出席する月1回のケア会議で話し合っているが、モニタリングノートに記録した情報を活用するまでには至っていない。	モニタリングノートに記録した情報を活かしながら定期的にアセスメントを行い、介護計画に反映させることを期待する。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録（各ユニット入居者の記録を1冊にまとめたもの）の他に、個別にモニタリングノートを作り、状態変化等が一目でわかるように工夫している。普段の個人記録は本人が行った事だけでなく、その時の様子や表情など細かいところまで記録できるとさらに活かせると思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの他、認知症対応型デイサービスを運営している。空きがなくグループホームにすぐ入居できない方などは、デイサービスに通ってもらいなじみの関係を築いたりする事ができる。入居者に関してはデイサービスに遊びに行く等、普段と違う場面を提供できる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	すべての地域資源の把握はできていないが、ボランティアは積極的に受け入れており、入居者の方を楽しませてくれている。その他、近隣の美容室、床屋を利用したり、避難訓練の際、消防署の方に来て頂くなどの取り組みをしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援できている。入居前のかかりつけ医に診てもらっている。入居後、身体機能の低下等により、通院が困難になった場合はご家族と相談し、往診に切り替える方もいる。	かかりつけ医は利用者や家族等が希望する医療機関となっており、受診は家族等の付き添いを基本としている。 家族等が付き添えない場合は、職員が有料で受診支援をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職員はおらず、通院や往診時に主治医に状態の報告や相談をしている。主治医の指示で訪問看護を一定期間導入したケースもある。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている。入院時は施設での生活や状態変化、入院までの経過等をサマリーにして、医師や看護師に情報を提供している。また、入院が長期に渡ると認知症の悪化が否めない為、なるべく早期退院できるようお願している。	/	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。グループホームで行える事の説明や他サービスについてご家族と相談するのはもちろんの事、職員全体でケアの方向性を検討している。	家族等の希望を受けて、医師の協力を得ながら昨年1年間で3名の看取りをしている。重度化や終末期に向けた事業所の対応指針を明文化したり、書面で家族等の同意を得るまでには至っていない。 今後は看取りを積極的に行う方向で家族等や市職員と話し合っている。	職員や医療機関、市職員などの関係者で話し合い、重度化や終末期に向けた事業所の対応指針を明文化するとともに利用者や家族等の同意を得るなど、体制を整備することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の定期的な訓練や実践力は身につけられていない。今後、救命救急の講習会を行う予定。一度に全員の職員が受けるのは困難だが、数回に分けて受講したいと考えている。	/	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の定期的な避難訓練は行っており、消防署の方にも協力して頂いている。地震や水害に対しては今後の検討課題である。	年3回消防署立会いのもと日中を想定した消防訓練を実施しているが、夜間を想定した避難訓練を実施するまでには至っていない。 避難訓練の実施記録を作成するとともに、「理解できない利用者の避難誘導に時間がかかった」などの課題を記録している。 避難訓練に近隣住民の参加を得るまでには至っていないが、自治会や日頃の交流を通して避難訓練への参加や災害時の協力を依頼しており、東日本大震災時には近隣住民から自家発電機の協力を受けている。 乾パンや飲料水を備蓄しているほか、設置している井戸水がいつでも使用できるように、水質検査を計画している。	夜間を想定した避難訓練を実施することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心掛けてはいるが、配慮が足りないと感じる事もある。入居者の方となじみの関係になるのは良い事だが、慣れ合いにならないように気をつけたい。	管理者や職員は日常のケアの中で利用者の名前を「○○ちゃん」と呼ばないように注意をしている。 職員はトイレ誘導時には周りの人に気付かれないようさりげなく声をかけ、利用者が嫌な思いをしないよう支援している。 個人情報に関する書類は事務室の鍵のかかる場所に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方はおおむね、自ら思いや希望を表してくれている。いつもと様子が違う時などは、こちらから声けするなどしている。言葉で意思表示できない方に対しては、表情や様子、声かけに対する反応なので、思いをくみ取る努力をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にするよう努めているが、忙しい時など業務を優先してしまう事もある。まだまだ努力が必要である。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援できている。顔なじみ美容室や床屋へ行く方もいる。自分の好きな洋服が着れるようにタンスの整理や衣替え（衣類の入れ替え）等のお手伝いをする事もある。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事一連の作業すべては行えないが、できる事を見極め、ご飯茶わんを運ぶ、ランチョンマットを敷く、テーブル拭き等、できる事を一緒に行っている。野菜の皮むきを行う事もある。	利用者は職員と一緒に台所や居間で食材の皮むきや盛り付け、配膳などを行っている。 食材は生協を活用したり近くの八百屋から配達してもらっているほか、事業所の自家菜園で採れた野菜並びに近隣住民から頂いた野菜や果物を利用している。 正月や桃の節句などの行事食を提供したり、計画的に外食するなど、食事が楽しめるように支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援できている。一人ひとりの状態に合わせて、食事量の調節、食べやすい形態にする、とろみをつける、補水ゼリーを用意する等細かい支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は行っていない。ご自分で歯磨きや入れ歯の手入れができない方は、職員が就寝前支援している。全員の口腔状態は把握できていない。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間オムツを使用している方も、日中はリハビリパンツと尿とりパットを使用し、トイレで排泄している。歩ける方でもリハビリパンツを使用している方が多く、失禁した際は自尊心を損なわないよう交換のお手伝いをしている。	職員は利用者一人ひとりの生活リズムを把握するとともに、排泄チェック表をもとに排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かけや時間でのトイレ誘導を支援している。 日中はおむつ使用の利用者もトイレに誘導し、トイレで排泄ができるように支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策に乳酸菌飲料（ミルミル）を飲んでもらっている方もいる。水分不足にならないよう努めており、水分の代わりにゼリーを提供するなどもしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	すべての方が希望通りの時間帯や曜日に入浴しているとは言いがたい。通常、職員一人で介助や見守りをしているが、入浴介助に職員2人が必要な方は、職員の都合の良い時間帯になってしまう。	要介護度が高い利用者の入浴には職員二人体制で介助にあたっているほか、要介護度が高い利用者の入浴介助がある日以外は、利用者が希望する時間帯や曜日に入浴できるように支援をしている。 職員は5月の菖蒲湯や12月の柚子湯のほか、いろいろな入浴剤を使用するなど利用者が入浴を楽しめるように工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援できている。各々のペースに合わせた休息のとり方ができている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については1冊のファイルにまとめており、薬の内容等がわかるようにしてある。原則、職員が手渡し、飲みこむ事を確認している。お薬ゼリーを使用している方もいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩を日課にしている方など、自分の好きな事をできる方もいるが、認知症の進行や身体機能が著しく低下された方などは、役割やできる事が少なくなってきた。そういった方に対し、どのような形で支援するべきか今後の課題である。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員の方が日常的に外出しているとは言いが、散歩を日課にしている方は、自由に出掛けてもらっている。また、購入したい物があれば、担当職員と一緒に出掛ける事もある。お墓参りにご家族と行かれる方もいる。	職員は利用者が散歩に出かけられるように支援をしている。 職員は利用者が近隣の美容院に一人でも行けるように支援をしており、通い始めの3回くらいは職員が付き添い利用者が一人で行けると判断できた場合は予め美容院に連絡を入れ、職員の付き添い無しでも美容院に行けるように支援をしている。 家族等との外出や外泊は規制しておらず自由に出かけることができ、利用者は家族等の協力を得て普段は行けない場所へ出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては事務所の金庫でお預かりしている。各々の金銭出納帳があり、購入した物をご家族が一目でわかるようし、レシートも添付している。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており、自由に使えるようになっている。上手くかけられない方に対しては職員が手助けしているが、使用する方は以前に比べると減っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホール、畳の部屋など自由に行き来でき、隣のユニットにも気兼ねなく行けるようになっている。写真や絵、季節の花などを飾り季節感を感じる事ができる。	共用空間は見渡すことができるようにこだわって設計されており、職員はいつでも利用者の様子を見ることができる。 中庭を囲むように居間や居室が配置され、全体が明るくなるように窓ガラスを多く設けている。 中庭に自由に出入りができるようになっており、ユニット名の「亀」や「鶴」にちなんで亀を飼ったり、鶴の代わりにウコッケイのつがいを飼育している。 玄関を入った廊下には観葉植物や季節の花が飾られ、会話をしたり書物を読みながら過ごせるように机や椅子を設置している。 居間にはクリスマスの飾りなど、利用者が制作した季節の作品を飾っている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内は自由に行き来できるので、好きな所で過ごせるようになっている。畳のある部屋でおしゃべりしている方もいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた家具やお仏壇など、なじみの物などを自由に持ち込んでもらっている。居室のカーテンも施設で統一したりせず、好きな物を使ってもらっている。	居室にはエアコンとクローゼットが備え付けられている。 管理者は居室が自宅の部屋と近い環境になるよう、利用者や家族等に馴染みの物品を持ち込んでもらうように働きかけており、利用者は整理箆箆やテレビなど馴染みの物品を持ち込んでいる。 職員は居室に利用者の手作り作品や家族等の写真などを飾り、利用者が居心地良く暮らせるように支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由に施設内に行き来できたり、日中は玄関の施錠はせず、自由に散歩に行ける事などが、逆に一人ひとりの力を活かしているのではないかと思う。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームしょうわ家族

作成日 平成24年6月12日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	日中の避難訓練は毎年行っているが、夜間を想定した訓練はできていない。	夜間の訓練を行うにあたり、職員がどれ位で集合できるかを把握する。(時間や人数等)	新たに連絡網を作成し、緊急時にどれだけ対応できるか、非常呼集を実施する。	1年間 (H24年度内)
2	33	重度化や終末期に向けた方針を確立する必要がある。	重度化や終末期に対する事業所の指針を確立するとともに、医療連携体制を導入する。	医療と連携をはかり、入居者の心身の状態を把握し、ご家族とも相談をしながらケアしていく。ご家族との相談内容は、モニタリングノートに記載しておく。	1年間 (H24年度内)
3	26	各入居者のモニタリングノートをさらに活用し、介護計画やケアに反映できるようにする。	モニタリングノートに記録した情報を活かしながら、定期的なアセスメントを行い、評価する。	各入居者に対し、介護計画通りにケアが行われているか、新たな問題はないかなど、毎月1回評価をし、計画やケアに反映できるようにする。	1年間 (H24年度内)
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。